(一)「分反」運動の成立と経過

昨年十二月七党合同に依って日本大衆党が成立したことは、全国の労農大衆の統一への要望の一つの具体的表現であった。しかも、日本大衆党はその成立の当初の宣言に於て、この七党合同に満足せず更に諸多の無産政党と合同をとげて我が国に於ける単一無産政党の樹立をば、全国の労農大衆の前に誓った。全国の労農大衆は、それ故に、日本大衆党に対して多大の信頼と希望とをなげかけたのであった。

然るに成立直後の中央執行委員会に於て、鈴木茂三郎、黒田寿男氏等の猛烈な反対を尻目にかけ、合同打切の「執行方針」なるものを断行した。全国の労農大衆は折角の期待を初めから裏切られ失望しつゝあったが、鈴木、黒田氏等の如き左翼幹部に信頼しつゝなほ日本大衆党に望みをかけてゐたのであった。

かゝるとき、党の書記長平野力三等の支配階級との醜取引が暴露された。ここに於て鈴木、黒田、古市等の中央執行委員並に党原代議士等は、憤然として全労農大衆の輿望を担って立ち、日本大衆党の階級性擁護のために大いに戦ったが平野書記長等は多数を以って押し切り問題を暗から暗に葬り去らんとした。鈴木、黒田、古市の諸氏は共に責任を負ふを潔とせず党任委員の地位をすてゝ大衆の中に没入して日本大衆党の階級性を擁護し、立党当初の宣言に公約せる単一無産政党樹立への努力をなすために身を挺